

総長のご挨拶



総長 倉智 博久

地域の医療施設の皆さま、いつも多くの患者さんをご紹介いただき、また、在宅医療や移行期医療などへのご協力など、当センターの運営に多大なご支援をありがとうございます。私たちは、高度先進医療に取り組むとともに、救急を含む周産期・小児医療分野で幅広い地域のニーズにお応えすることが極めて重要なことと考えております。

新型コロナの猛威は2年半を越え、2022年8月現在第7波の真只中にあります。当センターでは、第3波までは大きな困難は感じませんでしたが、第4波からは妊婦を診療する機会が増えました。第5波・6波からは小児の感染者が大幅に増え、当センターもそれまでの6床に加えて、1病棟(25床)あるいはその半分(13床)をコロナ患者専用としました。このため当センターの通常診療は制限せざるを得ず、多くの患者さんに、また、地域の医療施設の皆さまにご迷惑をおかけしました。今は、この状況が早く終息してくれることを心から願っています。

今年度の課題の一つは、2024年4月に迫っている医師の働き方改革への対応です。本年度中には大阪府医療勤務環境改善支援センターの協力を得ながら対応案を策定予定です。皆さまの施設でも同じ課題を感じておられると思いますが、当直医を多く必要とする当センターでは、可能な限り多くの「宿直許可」を泉大津労働基準監督署に認めていただくことが重要なテーマです。その準備のため、現在、宿直中の業務の詳細を調査しています。

このたび、当センターのホームページ(HP)を全面的にリニューアルしました。リニューアルのポイントは、HPを訪問される方の入口を分かりやすくしたことです。ぜひ、ご高覧いただき、修正すべき点などお気づきのことがあればご指摘いただけましたら幸いです。

当センターの建替えは、今年度は基本計画という段階にあります。来年度以降、基本設計・実施設計、そして建築開始という段取りとなります。現地建替えのため、工事に困難が伴い建築費も高額となるなどの問題を抱えていますが、現在の建物は診療上も様々な点が問題となりますので、何としても完遂しなければならないと考えています。



コロナの猛威など様々な困難がある状況下ではありますが、皆さまのご理解とご協力をいただきながら乗り越えていきたいと考えています。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。



心臓血管外科 部長
津村 早苗

この度、心臓血管外科部長に就任いたしました津村 早苗（旧姓 山内）です。

私自身は2010年に当センターに赴任し、川田博昭前院長、盤井成光前部長とともに、計10年以上にわたって数多くの手術に携わってきました。

小児循環器科をはじめ、麻酔科、集中治療科など各科各職種と連携をとって、安全で確実な、質の高い手術を提供するのが我々の使命だと考えています。

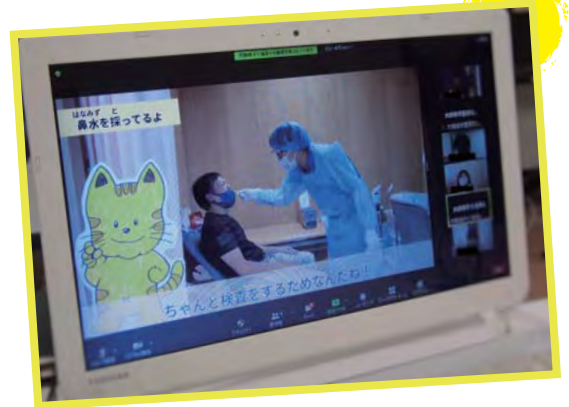
子どもたちが元気におうちに帰られるよう全力を尽くしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第13回きっずセミナーを開催しました

当センターでは、未来を担う子どもたちが、自分の将来について考える機会になってほしいと2010年から「きっずセミナー」を開催しています。

新型コロナウイルス感染拡大のため、今年もオンラインで開催しました。看護師コース、助産師コース、薬剤師コース、臨床検査技師コース、放射線技師コース、臨床工学技士コース、管理栄養士コース、研究者コースの8コースを開催し、全国から約100名の子どもたちが参加してくれました。一人で複数のコースに参加してくれる子どもたちもたくさんいました。

オンラインでも子どもたちが病院の仕事に興味を持ってもらえるよう、クイズ、動画なども取り入れ、各コース工夫して実施しました。



きっずセミナーをきっかけに、医療職を目指してくれる子どもたちがいたら嬉しいです。

特定行為（看護師）の実際

特定行為とは あらかじめ手順書や患者の病状の範囲などを定め、たうえで看護師が実施することができる医療行為のことで21分野38行為があります。特定行為研修を終了した看護師が特定行為を実施できます。

当センターにおいても、皮膚・排泄ケア認定看護師 松尾が特定行為を開始します。実施する特定行為は次の3行為です。

- ◇気管カニューレの交換
- ◇胃ろうカテーテル もしくは 腸ろうカテーテル 又は 胃ろうボタンの交換
- ◇褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去

医師と連携しながら、看護の視点も踏まえた細やかなケアを実践していきたいと考えています。



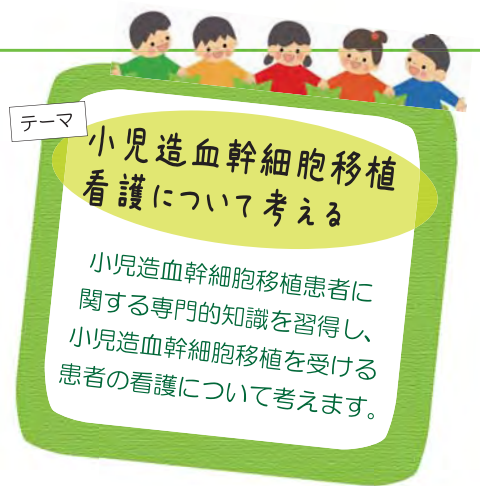
皮膚・排泄ケア認定看護師
松尾 規佐

小児造血幹細胞移植看護研修を開催しました (2022年7月16日)

コロナ禍のため休止していた小児がんセンター看護部門主催の小児造血幹細胞移植看護研修を2年ぶりに開催しました。新型コロナ第7波が始まったところでしたが、Web開催のため予定どおり開催でき、21名の方に参加していただきました。

今回の研修では、造血幹細胞移植を受けたAYA世代の経験者の方に移植後、どのような人生を送ってきたのか、家族との関係や友人との関係、そして、今の困りごとなどを交えて教えていただきました。

医療者の講義だけでなく、経験者の方のお話もあったことでより充実した研修となりました。



小児救急輪番制に参加しました



24時間365日近くの病院で専門医にすぐ対応してもらえる、そのような小児救急医療が理想的かもしれませんが、しかしながら、地域の医療資源が限られるなか、「受診するところがない」ということをなんとか避けるため、8病院が交代制で小児救急を維持しているのが泉州地域の現状です。

当センターは小児救命救急センターの役割を担ってきましたが、泉州地域の1次、2次小児救急体制維持が困難になりつつあり、2022年4月より小児救急輪番制に参加させていただくことになりました。

現在は、第1、4日曜日のみ参加であり、まだまだ微力ですが、各病院と連携して小児救急の一角を担うことができると考えています。

移行支援相談窓口を開設しました

当センターでは、小児期発症慢性疾患を有する患者さんの移行期医療に10年前から取り組んできました。そして今回新たに、転科・併診支援を強化した「移行支援相談窓口」を患者支援センターに設置しました。

ここでは、移行期医療支援コーディネーターと医療ソーシャルワーカーが連携し、患者さん・ご家族の気持ちに寄り添いながら、以下のような業務を行います。



- ◆成人期医療に繋がるまでの準備状況の確認
- ◆成人期医療についての説明・情報提供
- ◆移行先の紹介
- ◆希望者への初診同行訪問
- ◆転院後の相談

など

また、当センターには、大阪府移行期医療支援センターが設置されております。成人移行でお困りの際はご相談ください。

クリニック라운のWEB訪問

日本クリニックラウン協会は、2005年6月に設立され、11月から日本で最初のクリニックラウン（臨床道化師）訪問が当センターで開始されました。

長年にわたり、入院している子どもたちに笑顔をお届けしていましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、2020年3月より訪問を中止していただいていた。

今年の7月から月1回、Webでの訪問が再開しました。これは、iPad搭載のWebカメラのビデオ通話を使い、入院患者さんとクリニックラウンが双方向でリアルタイムにコミュニケーションを行うものです。



2022年6月にホームページをリニューアルしました。患者さん、医療関係者など閲覧される方によって入口を分け、ご希望の情報にアクセスしやすい工夫をしました。「やさしい、見やすい、分かりやすい」表示を心がけています。

「医療関係者 / ホットライン」
医療関係者の皆さま向けのコンテンツを設けています。

「ご来院に際して」
コロナ対応のルールなど
来院前に必要な情報をお伝え
できるようにしました。

「最近の取り組み・活動」
当センターを更に知っていただく
ことを目的に新設しました。
当センターが特に力を入れている
取り組みを発信しています。
掲載内容を定期的に見直し新たな
情報を提供するように努めています。

新しくなったホームページを
ぜひ一度ご覧ください。
<https://www.wch.opho.jp/>



スマートフォンからも
ご覧いただけます▶



地域診療情報連携システム（南大阪 MOCO ネット）を活用しています

在宅医療の充実・推進を図ることを目的に2018年3月から運用を開始した南大阪 MOCO ネットは、8月末時点で接続医療機関が78機関、公開患者約650名になりました。

在宅療養を行う家族からは母子医療センターの処方や検査、入院中の状態・治療などの情報を在宅医に閲覧してもらえることで安心できるとの声をお聞きしています。地域の先生方には主治医に直接相談ができるメール機能をよく利用していただいています。また、急性期病院では紹介患者さんのその後の治療や経過を返書までにタイムリーに把握していただけることがメリットとなっています。

接続医療機関	件数
病院	9
診療所	19
歯科診療所	5
障害福祉施設	1
医療福祉施設	2
訪問看護ステーション	25
保険薬局	14
保健所	3



今後も南大阪 MOCO ネットの接続機関を増やし、地域の医療機関の皆さまと連携を図っていきたいと思います。



交通のご案内



診察時間：平日 9時～17時30分
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL：0725-56-9890（直通）

FAX：0725-56-5605

【その他】 TEL：0725-55-3113（直通）

FAX：0725-56-7785

【医師相談窓口】 E-mail：chiren@wch.opho.jp

医療者対象
ホットライン
（※24時間受付直通）

PICUホットライン
☎ 0725-56-1070

小児がん・白血病
ホットライン
☎ 0725-57-7677

心疾患ホットライン
☎ 0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。